ところ会　10 月 OP 行事案内

狭山三十三観音を巡る　第 4 回

狭山湖周辺にある狭山三十三観音を 4 回に分けて周ります。
今回は最後で第 27 番寿昌寺～第 33 番妙善院まで歩きます。

記

■日　　時：平成 30 年 10 月 19 日（金）
8:05 入間市駅改札外に集合して下さい。
入間市駅 8:01 着の電車がありますので、先頭車両で。

■見学場所及び時間：コース全長　約 11km
所沢駅(7:45)…入間市駅（8:01 着 8:10 発）バス JA 二本木支店下車
⇒27 番寿昌寺⇒26 番山際観音堂⇒28 番西久保観音⇒**休憩（トイレ）**
⇒出雲祝神社⇒29 西勝院⇒30 松林寺⇒**昼食 鴻福**（11:45 頃）
⇒31 番聴松軒⇒32 番慈眼庵⇒33 番妙善院
⇒大日堂バス停……小手指駅着（予定時間 14:40 頃）

■昼食：台湾料理　鴻福 11：45 頃～　　04-2947-3171
■交通費：約 850 円

27 番 寿昌寺：正観音

臨済宗建長寺派の鶴円山寿昌寺は、はじめ 1393 年頃高根に創建されたが、その後二本木村が開発され、檀那の数が多くなったので二本木の現地へ移転したという。

観音堂は昭和 58 年に黒須の根本山薬師堂を譲り受け移設したもので**円柱、虹梁、斗栱**(ときょう)を残して建設されました。

観音堂の左に入間市指定文化財の**石造閻魔大王像**があります。享保 15 年（1730）に建立された総高 120cm、像高 80cm の坐像で、廃寺となった浄珍寺にあったものといわれています。

26 番 山際観音堂（西観音）：十一面観音

茶畑がひろがる山裾の一角に赤い屋根のお堂がある。明治初年編纂の宮寺地誌略に「**保元平治の頃、村山貫主頼任の息、宮寺五郎家平堂塔を建立す**」との口碑ありと記されている。

昔の本尊は明治年間に盗難に遭い北海道に渡ったという噂もあったが、真実はわからない。現在の観音堂は昭和 45 年に寄付を募り建立されたものです。御朱印は中村様または臼井様宅。

28 番西久保観世音（円通庵）：聖観音

神亀 5 年（728 年）春、**行基**が全国行脚の途中、出雲祝神社の神木で聖観音像を作り堂を開いたのがはじまりとされます。**入間市天然記念物**で樹齢 1000 年以上といわれるカヤの樹がある。御朱印は田中様または中村様宅。

出雲祝神社

出雲祝神社は、日本武尊が東夷征伐のとき、当地小手指ヶ原で、天穂日命（あまほのひのみこと）、天夷鳥命（あめのひなとりのみこと）を祭祀創建した

出雲伊波比神社の論社（延喜式内社論社）だといい、当社の存在により宮寺郷と呼ばれる地名が起ったといいます。延喜式の論社としては他に毛呂の出雲伊波比神社、北野物部天神社（北野天神）、川越の氷川神社などの論社があります。

戦国時代には出雲祝神社と称していましたが、江戸期には寄木明神社と称し、徳川家康より社領 10 石の御朱印状を拝領しています。明治 2 年出雲祝神社と改め、明治 5 年村社に列格していました。

地名にも残る「**寄木**」については、社記に「この辺の氏族は出雲系で、出雲の国の杵築湾に漂う木を取りあげ造られたのが出雲大社であり、天穂日命が東国に下ったとき杵築湾に漂い寄った樹種を携えてきて播種したのが、寄木の森」と伝えている。社殿の裏には**重闘茶場碑**（かさねてひらくちゃじょうのひ）など、狭山茶の由来などが書かれた石碑があります。

29 番西勝院：正観音

真言宗豊山派寺院の西勝院は、宮寺山無量壽寺と号します。西勝院の創建年代等は不詳ながら、一説には聖武天皇が全国に建立を命じた国分寺（最勝王院）の一つではないかともいい、矢寺村に最勝王院と称していたといいます。後に加納下野守が当地（宮寺館跡）へ移転したといいます。

西勝院は**村山党の祖・平頼任の孫**で**宮寺五郎**を称した家平が築いた館跡でもある。西勝院境内の東側には土塁と空堀の遺構が残っている。

三ヶ島には目医者として代々著名となった鈴木家がありました。医師鈴木家の始祖は宗閑、その子２人が三ヶ島流目医者の基礎を作りあげ、後に両人の系統が分立し、門の色から三嶋館(さんとうかん)赤門、大明堂(たいめいどう)黒門と呼ばれました。赤門は羽村の郷土博物館に移築されており、**黒門**がここ**西勝院**に移築されている。

赤門の鈴木一貫は貧者からは報酬を求めず、治療中に死亡した身寄りのない者は妙善院に葬り、映画「赤ひげ」のモデルと言われています。

詳細はこちら https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/history/history_meisha.html

30 番松林寺：千手観音

曹洞宗の寺院で長清山松林寺と号します。本尊は釈迦三尊、創建年代等は不詳ながら開山の吟國が 1653 年に亡くなっているので徳川家光の頃だと思われます。山門前の「不許葷酒入山門」の石碑の裏には長青山松林寺と刻まれているが、山門の額は吟龍山と書かれており、長青山と吟龍山が同時に使われています。

ここには仁王像、玄奘三蔵法師像、一葉観音があり閻魔堂には彩色された閻魔様が鎮座している。玄奘三蔵法師像には、孫悟空・猪八戒・沙悟浄と白馬の像も傍にあるので見落とさない様にして下さい。

本堂の前の獅子の像は**アショカ王柱**と言い、四頭の獅子は仏教を守護する東方持国天、西方広目天、南方増長天、北方毘沙門天を意味しインドの国章にもなっている。
なお、本堂のご本尊の右隣に千手観音像が見えます。

31 番聴松軒：馬頭観音

真言宗豊山派の聴松軒は宝永年間（1704-1710）に金仙寺の僧が創建したそうです。通常は閉鎖されています。馬頭観音は路傍に多く見られる仏様ですが、お堂に入っているのは珍しいですね。

32 番慈眼庵：聖観音

慈眼庵は曹洞宗の無住寺であり、同じ宗派の妙善院が管理しています。慈眼庵は墓地の中にあるお堂で、堂内には二つの仏像があり、左の小像が本尊の「聖観音」と思われる。

私塾の中伊佐衛門の筆子塚がある。御朱印は 33 番妙善院で。

33 番妙善院：白衣観音

狭山三十三観音は 1 番金乗院と最後の 33 番妙善院の住職が決めたと言われています。

曹洞宗妙善院は、東久留米の浄牧院の末寺で、本尊は**行基**の作といわれる白衣観世音です。惣門を潜った先の山門には仁王様と二階には十六羅漢様を安置、左手に地蔵堂、右手に慈母観音像を仰ぎ、鐘楼堂が右にある。

以前は寺子屋として子弟の教育にあたり、三ヶ島小学校も当寺で開校し、また三ヶ島村役場も大正 7 年までここにありました。

妙善院は、沢吉縄が関ヶ原の戦いに出陣したのち創立開基した寺院で、沢氏の菩提寺となっています。沢氏画像のほかに、沢氏系図、徳川家康画像なども残されています。

旗本沢氏画像　（市指定文化財）

江戸時代に当地を支配した旗本沢氏の画像二幅が残されています。嘉永 7 年（1854）に幕府御書院番の沢吉良が先祖の肖像を描いて奉納したもので、旗本自信が描いたものとして珍しい。この画像は、作者が両親と兄夫妻さらに甥夫妻を描いたことになり、描かれた肖像はより実像に近いと推測されます。さらに装束からも当時の風俗などを窺い知ることができ、歴史資料としても高く評価されています。

旗本沢氏画像の第二幅

旗本沢氏画像の第一幅
右下が作者

沢氏の先祖は、**小田原北条氏**に仕えていましたが、**吉縄**のとき北条氏が滅亡し、その後は**徳川家康に召抱え**られました。家康から三ヶ島村のうちに 150 石の知行地を拝領し、幕末まで領主として知行を続けます。沢氏は合わせて 600 石の知行取りでしたが、吉縄から数えて 7 代目の幸純が旗本最上位の幕府目付役まで昇進したのを除き、歴代当主は旗本のなかでは平

均的な位置にいました。

五輪の塔（埼玉県指定文化財）

沢氏累代の墓の隣には嘉暦年間（1329）の五輪の塔がある。一部欠けているところがあるが、ほぼ完全な形で伝わっており、各石にはキャカラバアの梵字が円形の中に刻まれている。宝珠形・半円形・三角形・半円形・三角形・円形・方形の５つの石に刻まれた文字は、宇宙の原理に基づいて構成されているという**五輪、すなわち空・風・火・水・地**の梵字である。

絵師・石川文松の墓

絵師石川文松は、山口観音の六歌仙絵馬をはじめ、狭山丘陵周辺の寺社に多くの絵を残しました。青梅の出身で、絵を谷文晁に学び、一時勝楽寺村に住んだが、晩年は三ヶ島村で過ごし、本寺の飛び地の薬師堂にあった小庵に住んだ。安政４年（1857）60 歳で亡くなった文松は当寺に葬られた（山門近くの無縁仏の中）。当寺開山堂の天蓋には、文松が描いたと伝える鳳凰図が色鮮やかに残されている。

狭山三十三観音めぐりは、三十三ヵ寺の観音菩薩をめぐるのですが、その本尊・観音菩薩の内訳は次の通りです。観音菩薩は三十三の姿に変化して人々を苦難から救うとされます。それが三十三の観音がある理由です。

聖（正）観音..... 15
千手観音..... 6
十一面観音..... 5
如意輪観音..... 3
白衣観音..... 3
馬頭観音..... 1

帰路：大日堂バス停から小手指駅南口までバスで戻ります

14 時 18　38　58　　15：13　28　43　58

以上で、狭山三十三観音巡りは終了です。